

卒業論文 概要

卒業論文テーマ：日常生活における色彩による心理的影響

経営学部経営学科 B4R11187 山岸 佳代子

準備

①色彩の効果

(1) 心理的效果

色にはそれぞれ、個人の環境や経験にかかわらず持つ意味やイメージ、視覚に訴える力がある。例えば赤は情熱を感じさせ、青は冷たさを感じさせる。色はそれぞれ複数のイメージを持つ。また、視覚に訴える力とは膨脹色や収縮色・進出色や後退色など、色によって実際と異なるイメージを持たせる効果である。

(2) 視覚的效果

それぞれの色の色相・明度・彩度が周囲の色に影響され、実際とは異なる色のように見えてしまう効果である。

(3) 生理的效果

赤色には血圧を上げる効果があり、青色には血圧を下げる効果がある。というように、血圧や食欲、睡眠などの、意識とは別に色彩によって作用される効果である。

②色彩が与える影響の根本についてのアンケート調査

色に対するイメージは個人差があるが、そもそも“なぜ”そう思うのかを知るためにアンケート調査を行った。結果として、①歴史的・自然的要素②社会的・環境的要素③個人の経験による要素の3つが挙げられる。①は人類の長い歴史で備わる生きるために必要な本能や自然の中にある不動の事実である。②は社会の中に溢れる色で、個人差の少ないものである。③は個人の経験に基づいた個人差によるものである。

③経営戦略における色彩

ロゴやディスプレイなどの色に関する戦略をまとめ、ロゴに関しては企業が消費者に与えたい影響と実際に消費者が感じるイメージがマッチしているかのアンケート調査を行った。

結論：色は人の生活に大きく関わっており、生理的現象や行動などの無意識的な部分に影響する。